

R5 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	農業・課題研究	単位数	3	担当者	岩崎・植原・木下・鈴木・古畑・三澤
---	----	-------	---------	-----	---	-----	-------------------

1、教科書・副教材

森林科学 実教出版、環境科学基礎、実教出版
 森林経営 実教出版、林産加工実教出版、測量 実教出版（サイエンスコース）
 グリーンライフ 農文協、生物活用 農文協（ビジネスコース）

2、科目の目標

森林や環境、地域に関する課題を生徒ごとに設定させ、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。さらに結果や考察についてプレゼンテーションする能力をつける。

3、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前期	4月	調査、研究、実験、資格の取得 作品制作についてのテーマの設定	森林や環境に関する生徒の興味・関心・進路希望に応じて、個人又はグループで適切な課題を設定させる。	5 3	中間報告（模造紙のまとめ）
	5月	年間計画	研究・製作等の詳細な年間計画の設定		
	6月	実施	研究の実施		
	7月	検討と調整・中間報告	文化祭での中間報告と再検討 （各グループとも模造紙 1 枚程度のまとめ、写真図表の活用）		
	8月	実施	作品製作や調査研究の継続		
	9月				
後期	10月	成果のまとめ・記録	結果のとりまとめと考察	5 2	報告書の作成 発表会 作品
	11月	報告書作成	報告書の作成		
	12月				
	1月	プレゼンテーション			
	2月	最終報告とまとめ	発表会での発表と最終報告書の作成		
	3月				

4、評価の方法・観点

評価方法	評価の観点	
報告書 表現力 成果物	①関心・意欲・態度	専門分野の具体的テーマに強い感心を示したか
	②思考・判断・表現	自らのテーマの研究に正確な判断と考察ができたか
	③技能	技術の向上と発表力を身につけたか
	④知識・理解	専門分野をより深めることができたか

5、学習にあたっての注意とアドバイス

堅実なテーマの設定と確実な進行について常にチェックし、目的どおりの成果が挙げられるよう研究を進めていきます。

R 5 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	農業・総合実習	単位数	2	担当者	鈴木・岩崎・植原・清原
---	----	-------	---------	-----	---	-----	-------------

1、教科書・副教材

森林科学 実教出版

2、科目の目標

専門分野の多彩な分野の知識技術を確実に体験的に習得する

3、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前期	4月	キノコ種菌接種 伐木作業安全教育 農業鑑定学習	シイタケの種菌接種の実際を学ぶ 大径木および偏心木の伐木の方法 かかり木の処理	35	
	5月	丁張り実習	測量の実際と丁張りの実際についての実習 チェーンソーの点検および整備		
	6月	演習林実習 チェーンソーの使用の実際	ソーチェーンの目立て 農業と森林管理の基本的な知識を習得する		
	7月		林道整備と丁張りの実際を学ぶ 森林の管理技術（主に間伐）を習得する		
	8月				
	9月				
後期	10月	演習林実習	樹木の伐採、薪作りの技術の習得 間伐技術を実習を通じて習得する。	35	
	11月	林道の維持管理	バックホー操作の学習と林道整備を行う。		
	12月	製炭実習	ドラム缶炭窯による製炭作業技術を身に付ける。		
	1月	1年間の復習	座学を通じて実習のまとめを行い知識の定着を図る。		
	2月				
	3月				

4、評価の方法・観点

評価方法	評価の観点	
技術習得 実習態度	①関心・意欲・態度	専門への興味関心が持てたか
	②思考・判断・表現	それぞれの専門分野について応用的に考察できたか
	③技能	専門的技術を習得できたか
	④知識・理解	専門技術の基礎知識を習得できたか

5、学習にあたっての注意とアドバイス

生徒が自ら専門技術をほぼ身につけ、実際に応用できるようにします

R5 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	農業・森林科学	単位数	3	担当者	三澤・植原
---	----	-------	---------	-----	---	-----	-------

1、教科書・副教材

森林科学 実教出版

2、科目の目標

森林環境維持の手段としての森林保護・治山について、その知識と技術について管理・施工できることを目的とする。

3、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	森林保護	鳥獣害 病気 虫害 気象害 火災	5 3	森林保護
	5月	世界の森林被害	大気汚染・乾燥 伐採・酸性雨ほか		
	6月		世界の森林維持の動向		
	7月	森林の維持活動	国土の維持と森林		
	8月 9月				
後期	10月	治山の概要	侵食、山崩れ 地すべり、河川の動態・ 水の循環	5 2	治山
	11月	山地の荒廃			
	12月	溪流工事・山腹工事・地すべり工事	溪流工事 山腹工事		
	1月		地すべり工事		
	2月	砂防設計	砂防ダムの設計		
3月					

4 評価の方法・観点

評価方法	評価の観点	
知識試験 レポート成果 実習態度	①関心・意欲・態度	森林保護と治山に関心を持てたか
	②思考・判断・表現	森林維持のために必要な内容を考えたか
	③技能	森林維持技術を身に付けたか
	④知識・理解	森林維持技術を習得したか

5、学習にあたっての注意とアドバイス

--

R 5 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	農業・森林経営	単位数	3	担当者	三澤
---	----	-------	---------	-----	---	-----	----

1、教科書・副教材

森林経営 実教出版

2、科目の目標

森林経営の計画と管理に必要な知識と技術の習得させ、森林の機能及び森林の評価の必要性を理解させるとともに、森林を持続的に経営する能力と態度を育てる。

3、学習の計画

	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲	
前期	4月	森林政策と法規	53	森林政策と法規	
	5月	森林の現状と経営			
	6月				流域管理システム 森林関連法規
	7月				森林資源の状況 経営の現状と特質
	8月	森林経営の計画			経営目標 森林施業計画 林況調査
9月					
後期	10月	森林計画簿の作成	52	森林の現状と経営 GIS 森林経営の実例	
	11月	リモートセンシングとGIS			
	12月	森林経営の実例			
	1月				GISの概要と実際 GISの利用 リモートセンシング
	2月				日本の先進林業地の経営
3月					

4、評価の方法・観点評価の方法・観点

評価方法	評価の観点	
知識試験 レポート成果 実習態度	①関心・意欲・態度	森林の現状について関心が持てる
	②思考・判断・表現	森林の経営目標について考えられる
	③技能	森林計画を立案できたか
	④知識・理解	森林経営の知識を習得したか

5、学習にあたっての注意とアドバイス

--

R5 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	農業・林産物利用	単位数	3	担当者	鈴木・清原
---	----	-------	----------	-----	---	-----	-------

1、教科書・副教材

副教材 林産加工 実教出版

2、科目の目標

地域の森林や学校演習林を利用し、木材を製材・二次利用・利用などや山菜・きのこのなどの特用林産物を生産・加工する知識と技術を習得する。
--

3、学習の計画

	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	きのこの生産と加工	35	きのこの生産と加工・山菜の加工・木材の構造・木材の性質・木材の用途
	5月	山菜の加工		
	6月	木材の構造		
	7月	木材の性質		
	8月	木材の用途		
	9月			
後期	10月	製材	35	製材・木材の乾燥と保存・木材の工作・改良木材の製造・木材パルプと和紙 木炭・薬用植物の生産と加工・バイオマスの利用
	11月	木材の乾燥と保存		
	12月	木材の工作		
	1月	改良木材の製造		
	2月	木材パルプと和紙		
	3月	木炭・薬用植物の生産と加工		
	3月	バイオマスの利用		
3月	まとめ			

4、評価の方法・観点

評価方法	評価の観点	
知識による評価 実技による評価 知識による評価	①関心・意欲・態度	木材の利用の意義を感じられたか。
	②思考・判断・表現	安全な製材作業法を判断できるか。
	③技能	安全かつ正確な作業ができるか。
	④知識・理解	木材の特性と安全な判断ができるか。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

安全第1に作業を行い、製材加工機器の正しい操作方法を学ぶ。

R5 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	農業・生物活用	単位数	3	担当者	古畑・清原
---	----	-------	---------	-----	---	-----	-------

1、教科書・副教材

<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書 生物活用 実教出版 ・ 副教材 有機家庭菜園 家の光出版

2、科目の目標

<ul style="list-style-type: none"> ・ 草花の栽培と活用方法、馬・イヌの飼育と活用など植物や動物と人間との関わりがもたらす効果を学ぶ。 ・ それぞれの学習に関連する職業を体験的に学習し、幼稚園との交流活動を行うことにより、地域社会との繋がりの中で生物を活用した社会生活の質の向上に役立つ産業の姿を学ぶ。 ・ 木曽川流域に生活圏を居住することから海洋教育を通して脱プラスチック社会の構築に寄与する。
--

3、学習の計画

	学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲等
前期	4月	生物活用の意義と役割	5 4	生物の定義 生物の活用 人間生活 植物・動物 総合演習
	5月	植物・園芸と人間生活		
	6月	動物と人間生活		
	7月	生物を活用した療法		
	8月	園芸療法		
後期	9月	動物介在療法	5 5	馬の飼育と活用 交流計画・実施のまとめ 1年間の学習のまとめ 総合演習
	10月	馬の飼育と活用		
	11月	交流活用の実施①		
	12月	交流活動の実施②		
	1月	交流活動の実施③		
	2月	海洋教育の活用		
3月	生物活用の実際			

4、評価の方法・観点

評価方法	評価の観点	
交流計画の立案状況 定期考査 学習に関するレポート 取組状況	①関心・意欲・態度	生物的な事物・事象に関心を持ち、意欲的に探究し、農業的態度を身につけたか。
	②思考・判断・表現	生物的な事物・事象を実証的・論理的にとらえ、総合的に考察し、事実に基づき農業的に判断することができるか。
	③観察・実験の技能	生物的な事物・現象に関する観察の手法を習得するとともに、それらを農学的に探究する方法を身につけ、結果・考察を的確に表現することができるか。
	④知識・理解	生物的な事物・事象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけているか。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

<ul style="list-style-type: none"> ・ 交流活動や校外学習に際しては、生徒が積極的・主体的に行動するよう促し、コミュニケーション能力を養う。 ・ 活動のまとめや報告を行い、表現力や問題解決能力を養う。

R5 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	農業・食品流通	単位数	3	担当者	木下
---	----	-------	---------	-----	---	-----	----

1、教科書・副教材

食品流通 実教出版

2、科目の目標

・現代生活における流通の関わりや役割を理解する。

3、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	流通の始まりと発展	流通の成り立ちを知り、流通とは何かを理解する	53	流通について
	5月	流通の働き	生産と消費のへだたりについて理解する		
		食品流通の役割	食品流通に求められるものについて理解する。		
	6月	経済活動と食料	経済発展と食料消費、世界の食料事情について理解する。		
	7月	食品流通のしくみ	流通経路の概要を知る		
		規格外なものを栽培	規格外のものでも考え方によってはビジネスになることを体験し理解する。 フードシステムの仕組みを理解する		
8月 9月	私たちをとりまくフードシステム				
後期	10月	米の流通	米の食品特性と流通について学ぶ	52	主な食品の流通について
	11月	麦の流通	麦の食品特性と流通について学ぶ		
		畜産物の流通	畜産物の食品特性と流通について学ぶ		
	12月	食品の品質と安全性	食品の品質と安全性について学ぶ		
	1月	物流の仕組みと働き	物流とは何かを理解する		
	2月 3月	学習のまとめ			

4、評価の方法・観点

評価方法	評価の観点	
知識試験 レポート成果	①関心・意欲・態度	科目の学習内容に関心を持ち意欲的に授業に取り組める
	②思考・判断・表現	学習内容を思考し社会全体占める流通の位置づけを判断する
	③技能	学習内容を適切にまとめ発表し表現する
	④知識・理解	学習内容の知識と理解を深める

5、学習にあたっての注意とアドバイス

--

R5 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	農業・農業情報処理	単位数	2	担当者	古畑
---	----	-------	-----------	-----	---	-----	----

1、教科書・副教材

農業と情報 実教出版

2、科目の目標

<p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業に関する情報を主体的に活用するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 農業に関する情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 農業に関する情報について主体的に調査・分析・活用ができるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>

3、学習の計画

	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前 期	4月	私たちの生活と農業の情報化 社会を支えるコンピュータ プログラミングの基礎	35	既習範囲
	5月			
	6月			
	7月			
	8月			
9月				
後 期	10月	農業情報の分析と活用 農業学習と情報活用 スマート農業への展望	35	既習範囲
	11月			
	12月			
	1月			
	2月			
	3月			

4、評価の方法・観点

評価方法	評価の観点	
課題などのデータファイル 各学期考查 取り組みの状況	①関心・意欲・態度	情報処理の応用に関心が持てる
	②思考・判断・表現	情報処理の利用について考察したか
	③技能	情報処理の応用技術が身についたか
	④知識・理解	情報処理の応用知識を習得したか

5、学習にあたっての注意とアドバイス

<p>コンピュータを使うことで身につくことが多いです。操作が分かると、知識の理解も深まり思考・判断・表現の力も身につきます。まずは授業を欠席せず、実際の操作をすることが大切です。全員が確実にソフトウェアの利用ができるよう配慮し、検定の取得についても取り組みます。</p>

R 5 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	農業・森林科学	単位数	2	担当者	木下
---	----	-------	---------	-----	---	-----	----

1、教科書・副教材

森林科学 実教出版

2、科目の目標

森林の保護に必要な知識を学習させ、森林破壊の現状を理解させる。また、森林に生息する動物やそれらの野生動物問題などを学習し、被害防除と利用、野生動物との共生を考察する。演習林実習や校外活動を通じて森林と親しみ、森林を総合的に利用する能力と態度を育てる。

3、学習の計画

	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	人間と森林	35	人間社会と森林 森林の保護 他
	5月	木曾の森林について		
	6月	近年の森林変化		
	7月			
	8月			
	9月	世界で起こっている森林破壊		
後期	10月	日本で起こっている森林被害	35	レクリエーションの機能 他
	11月	レクリエーションの機能		
	12月	レクリエーションの研究		
	1月			
	2月	森林利用についてのまとめ		
	3月			

4、評価の方法・観点

評価方法	評価の観点	
知識試験 レポート成果 実習態度	①関心・意欲・態度	森林の意義について関心を持てたか
	②思考・判断・表現	森林の機能や野生動物問題について考えることができたか
	③技能	森林利用や被害防除などについて習得できたか
	④知識・理解	森林利用や被害防除などについて理解できたか

5、学習にあたっての注意とアドバイス

R 5 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	農業・測量	単位数	2	担当者	木下
---	----	-------	-------	-----	---	-----	----

1、教科書・副教材

測量 実教出版

2、科目の目標

測量の基本である基準点測量の基礎と地形測量を中心にした細部測量、地図測量について学ぶ
--

3、学習の計画

	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲	
前期	4月	測量とは	35	平板測量と誤差	
	5月	平板測量			測量を学ぶにあたって基本的なことを勉強する。
	6月				平板測量の方法 器具の説明
	7月				平板を用いた測量
	8月				閉合誤差と調整
	9月				
2学期	10月	水準測量	35	水準測量	
	11月	等高線 面積計算			水準測量の実際 基準となる点から水準測量を行い、水準測量の方法を身につける
	12月				野帳の記入の仕方、計算方法など身につける
	1月				面積計算と基礎を身につける (三斜法、三辺法)
	2月				
	3月				

4、評価の方法・観点

評価方法	評価の観点	
知識試験 技術試験 レポート成果 実習態度	①関心・意欲・態度	測量に関心を持てる
	②思考・判断・表現	測量の基本的手法を捉えられる
	③技能	測量の技術を習得できる
	④知識・理解	測量の知識を習得する

5、学習にあたっての注意とアドバイス

--

R5 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	農業・グリーンライフ	単位数	2	担当者	岩崎
---	----	-------	------------	-----	---	-----	----

1、教科書・副教材

グリーンライフ 農文協

2、科目の目標

木曽地域の魅力を再発見し地域の活性化や活用を考察する。

3、学習の計画

	月	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	人間生活とグリーンライフ	グリーンライフの潮流を理解する	35	
	5月	グリーンライフと交流・余暇活動	交流・余暇活動型経営の動向を知る		
	6月	農業・農村の魅力	地域性や豊かな文化を学ぶ		
	7月	自然環境と農業・農村の発見	身近な自然を発見・体験する		
	8月				
	9月				
後期	10月	農村文化の発見と活用	農村文化とその特徴を理解する	35	
	11月	グリーンツーリズムの特徴とあゆみ	グリーンツーリズムのあゆみと展開を学ぶ		
	12月	グリーンツーリズムの企画立案と発表	ツアーの取材・計画・発表を行う		
	1月	直売所の企画・開設と運営	直売所の体験実習と企画作業を行う 成果の反省		
	2月	まとめ			
	3月				

4、評価の方法・観点

評価方法	評価の観点	
知識試験 技術試験 レポート成果 実習態度	①関心・意欲・態度	授業・実習に関心を持ち意欲的に取り組める
	②思考・判断・表現	学習内容を吹かれる思考や応用する工夫ができる
	③技能	取材や企画・計画・発表の技術や適切な表現ができる
	④知識・理解	学習内容について知識や理解を深める

5、学習にあたっての注意とアドバイス

地域資源に活用に向け実践力を身に着けること

R 5 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	農業・農業土木施工	単位数	2	担当者	鈴木
---	----	-------	-----------	-----	---	-----	----

1、教科書・副教材

農業土木施工 電機大

2、科目の目標

農業土木工事の特質を理解し各種工事を自然環境に配慮し合理的に施工・管理する能力を身につける。 コンクリートの設計・施工について学習する JW_CAD を使い図面の作成を行う
--

3、学習の計画

	月	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	農業土木事業の役割	農地の整備と保全かんがい排水などの農業土木工事の概念を学ぶ	35	コンクリートの知識 コンクリートの性質 コンクリートの設計 コンクリートの施工
	5月	コンクリートの設計と施工	コンクリートの性質		
	6月	コンクリートの施工・実習	コンクリートの設計		
	7月				
	8月				
	9月		コンクリート施工実習		
後期	10月	CAD の学習	JW_CAD の基礎を学習する	35	JW_CAD の知識
	11月				
	12月				
	1月	CAD による製図	JW_CAD で土木製図を行う		
	2月				
	3月				

4、評価の方法・観点

評価方法	評価の観点	
知識試験 レポート成果 実習態度	①関心・意欲・態度	環境維持の技術に関心を持てる
	②思考・判断・表現	設計の基本的捉え方ができる
	③技能	土木設計の一部ができる CAD で製図できる
	④知識・理解	水理・土木についての基本知識を習得する CAD の知識を習得する

5、学習にあたっての注意とアドバイス

--

R 5 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	農業・造園技術	単位数	2	担当者	鈴木
---	----	-------	---------	-----	---	-----	----

1、教科書・副教材

造園技術 文部科学省

2、科目の目標

庭園の基礎知識と造園管理技術について基礎的知識を学ぶ

3、学習の計画

	月	学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前期	4月	庭園の歴史	庭園の目的と歴史の変遷を理解する	35	庭園の概要
	5月	庭園の構成と特徴	庭園の様々な様式について学ぶ		
	6月	造園材料	庭園を構成する要素とその特徴について学ぶ		
	7月	庭園管理	庭園管理の実際を習得する		
	8月	庭園管理			
後期	9月	庭園管理		35	トレース作品 庭園設計図
	10月	造園施工	造園施工の実際を体験する。		
	11月	庭園設計	設計の流れと設計図面 設計の手法と製図の基礎		
	12月		平面図の製作 トレースと自主設計		
	1月		見取り図の製作 トレースと自主設計		
	2月				
	3月				

4、評価の方法・観点

評価方法	評価の観点	
知識試験 技術試験 レポート成果 実習態度	① 関心・意欲・態度	庭園に関心を持てる
	② 思考・判断・表現	庭園の手法を考えることができる
	③ 技能	造園の様々な技術を身につける
	④ 知識・理解	造園と設計の進め方や知識を知る

5、学習にあたっての注意とアドバイス

--

R 5 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	農業・ウッドクラフト	単位数	2	担当者	鈴木
---	----	-------	------------	-----	---	-----	----

1、教科書・副教材

2、科目の目標

 間伐材やその他森林資源を利用した製品の製作

3、学習の計画

	月	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前 期	4月	施設・用具の使用法	木工品を作成するにあたって、安全に作業を行うための施設や用具の使用法について学習を行う 木材についての基礎的な名称や性質を学ぶ 木材を加工・研磨し小作品を作成する 演習林より、素材（間伐材等）の採集を行う	35	
	5月	木材の基礎知識			
	6月	木工品の制作①			
	7月	素材の採集			
	8月				
後 期	9月		間伐材を使用して、ベンチ等の作成を行う みずから設計を行い、間伐材等を使用して作品の制作を行う 成果の反省	35	
	10月	木工品の制作②			
	11月	木工品の制作③ まとめ			
	12月				
	1月				
	2月				
3月					

4、評価の方法・観点

評価方法	評価の観点	
知識試験 レポート成果 実習態度	①関心・意欲・態度	木材の性質を理解できたか、
	②思考・判断・表現	作品の制作について、設計から加工の過程を管理できているか・道具の使用法が身についているか
	③技能	加工技術を身に付けたか
	④知識・理解	知識を身に付け、積極的に制作に取り組んでいるか

5、学習にあたっての注意とアドバイス

 機材の使用法や安全教育を徹底し、安全に留意して実習を行う。

R 5 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	農業・農業簿記	単位数	2	担当者	岩崎
---	----	-------	---------	-----	---	-----	----

1、教科書・副教材

高校簿記新訂版 実教出版

2、科目の目標

簿記の仕組みや役割を理解し集計決算作業が出来るようになる

3、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前期	4月	損益計算表と貸借対照表	二表を作成できる	35	諸表とその転記
		取引と勘定記入			
	5月	試算表、精算表	各種精算表を作成できる		
	6月	決算と財務諸表の作成			
		商品売買	有高の諸表を作成できる		
	7月	売掛金、買掛金、債務・債権	債権の意味が分かる		
	8月	有価証券	有価証券換算表を作れる		
	9月	手形（1）	各種手形の仕分け・記帳が出来る		
後期	10月	手形（2） （貸倒損失と貸倒引当金）	（引当金の意味が分かる）	35	有高帳の記載と引当金等 精算表と年間のまとめ
		固定資産と減価償却	減価償却費を仕訳し、記帳できる		
		費用・収益の繰り延べ （費用・収益の見越し）	費用・収益の繰延勘定が出来る		
	12月	資本金・引出金・税金 諸表の作成	資本金と税金での表を記載できる 各諸表を作成できる		
	1月	試算表、精算表作成	3級レベルの検定の内容が分かる		
	2月	まとめ			
	3月				

4、評価の方法・観点

評価方法	評価の観点	
知識試験	①関心・意欲・態度	資格取得に関心を持てる
レポート成果	②思考・判断・表現	帳簿の記入から経営状態が把握できる。
実習態度	③技能	正確な仕分けと計算ができる
成果	④知識・理解	仕分けと諸帳簿の記入ができる

5、学習にあたっての注意とアドバイス

全経簿記3級資格取得を目指す 創業知識を身に着ける
